

取環境大学は国際規格ISO14001認証を取得しています。

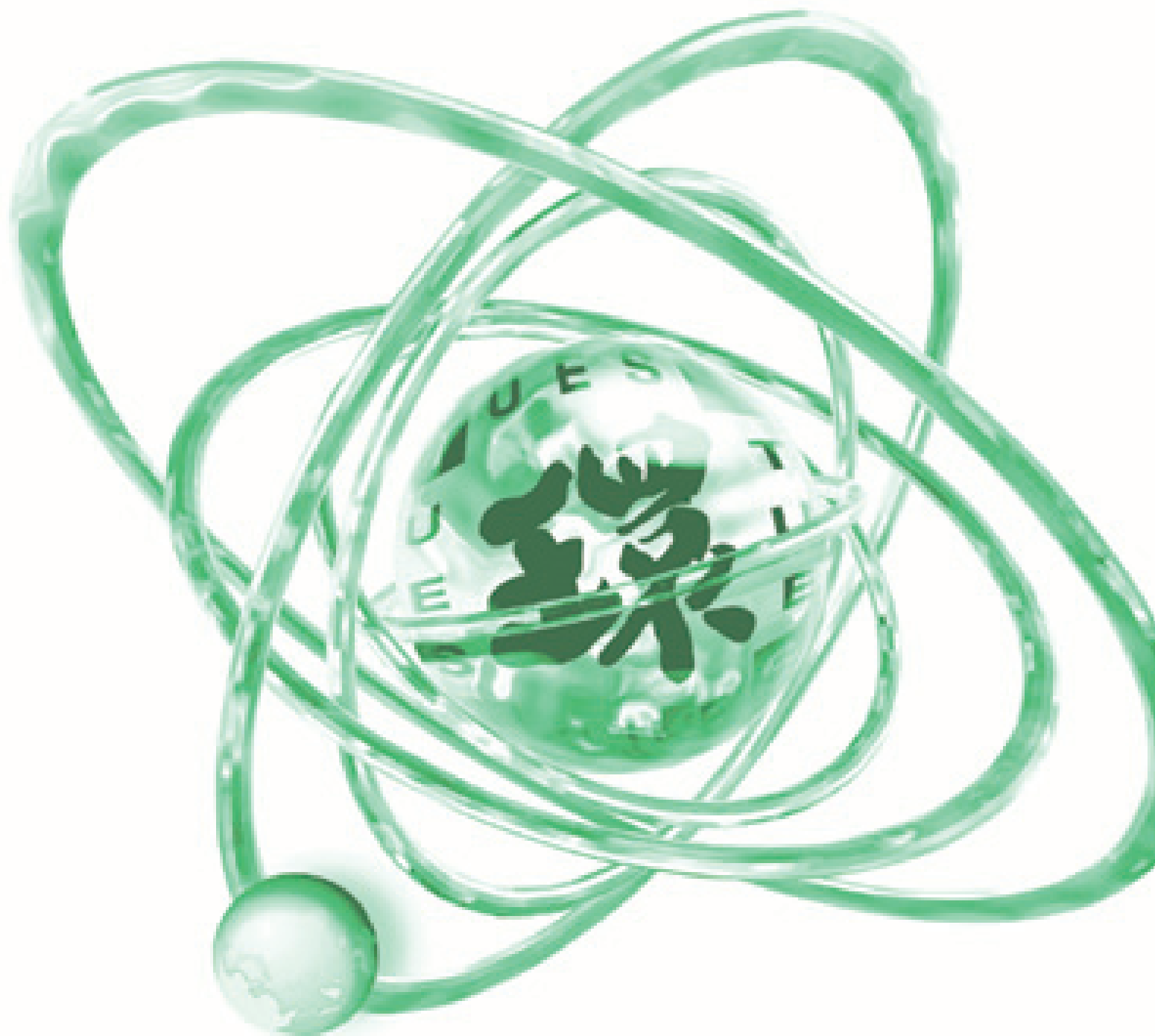
若葉台レポート

W A K A B A D A I R E P O R T

鳥取環境大学報

Tottori University of Environmental Studies
Public Relations Magazine

第13号



特集

鳥取環境大学 新学長 古澤 巖 / 鳥取県循環型社会モデル3大プロジェクト

「地球の未来をサポート」 鳥取環境大学 学長が語る

2 | 3



キャンパストピックス

第5回「環大コンベ」の入賞企画が決定 / 平成20年度 学生年度表彰

4



プロジェクト研究

城下町とっとり街歩き観光コースを企画する

5



2008年度後期 キャンパスニュース

2008年9月～2009年3月

6 | 7



就職支援

行列のできる!?就職相談所 vol.5 実施報告 / 2008年度就職活動結果

8



ESSAY

「伝統行事と人々の往来」福高義宏(環境マネジメント学科)

9



クラブ&サークル活動

吟詠剣詩舞部・空手道同好会

10



人事報告

着任のご挨拶

10 | 11



お知らせ・その他

大学学部・大学院学位授与式 / 入学式 / 支援する会 / 公開講座のお知らせ / 保護者の声

12



特集

鳥取環境大学 学長が語る

「地球の未来をサポート」時代が求める人づくり

環境学を総合的に学べる大学として誕生した鳥取環境大学。任期満了に伴う学長選考で古澤巖学長を再選し、今春開学9年目を迎えました。そこで、環境の時代に求められる大学への舵取りをする古澤学長に意気込みを聞きました。

4 学科体制が スタートしました

本年度創設した環境マネジメント学科について

進学を目指す高校生や保護者が環境学をイメージしやすい学科として新設しました。地域活性化と循環型社会構築の2つのコースを設け、循環型社会を支える文化や技術を学ぶことで、新しい社会の構築を提案できる専門家を養成する学科です。初年度の募集でこの学科に対する関心の高さがうかがえ、自信を深めました。これで4学科体制がスタート。既設の学科についても充実を図り、学びの魅力アップに努めました。

環境政策経営学科

政策コース

経営・ビジネスコース

環境問題が発生するメカニズムから解決へ向けての取り組みまで、法律、経済、経営などの社会科学の見地から政策手法の立案力を養います。

【取得目標資格】

公認会計士、税理士、簿記、行政書士、宅地建物取引主任者、ファイナンシャルプランナー、環境管理士、公害防止管理者、環境計量士、環境審査員補

New

環境マネジメント学科

地域活性化コース

循環型社会構築コース

自然環境に調和した持続可能な社会システムやライフスタイルの構築を目指し、フィールドワーク等の実践を通して新しい価値を創造します。

【取得目標資格】

環境カウンセラー、森林インストラクター、自然体験活動指導者、技術士(森林部門・環境部門) 廃棄物処理施設技術管理者、特別管理産業廃棄物管理責任者、グリーンアドバイザー、ピオトープ計画管理士、ネイチャーゲーム指導員、自然観察指導者、ISO審査員、気象予報士、生物分類技能検定(2級・各種)

建築・環境デザイン学科

建築インテリアコース

環境デザインコース

建築設計から家具デザイン、古民家再生、ランドスケープまで、「安全・健康・快適で持続性のある美しい環境デザイン」のあり方を探究します。

【取得目標資格】

一級建築士、二級建築士、木造建築士、測量士、インテリアプランナー、カラーコーディネーター、色彩検定、照明コンサルタント、福祉住環境コーディネーター、ライフスタイルプランナー、CAD利用技術者、建築CAD検定

取得にはいくつかの条件が必要となる資格があります。

情報システム学科

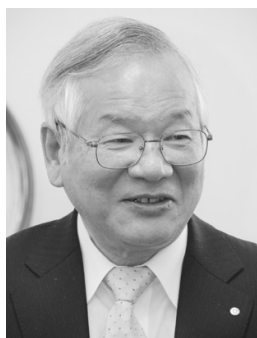
環境情報システムコース

インターネットシステムコース

省資源、省エネルギー社会の実現を目指し、情報システムのハードウェアやソフトウェア、ネットワークに関する豊かな知識をスキルを修得します。

【取得目標資格】

ITストラテジスト、システム監査技術者、情報セキュリティスペシャリスト、システムアーキテクト、データベーススペシャリスト、ITサービスマネージャ(データベース・システム管理・エンベディットシステム・ネットワーク)、プロジェクトマネージャ、応用情報技術者、基本情報技術者、ITパスポート、ドットコムマスター



持続的な経営が最大の責務

来年は開学10周年の大きな節目

学生を確保し、持続的な経営ができるようにすることが私の最大の責務です。原点に帰ってこの大学を設立した目的や意義をもう一度考えながら、新しい鳥取環境大学の在り様を探りたい。任期の最初の二年間で見極めをつけることが私に課せられた責務であり、それに応えたいと考えています。

学長 古澤 巖 ふるさわいけお

岡山大学農学部卒。京都大学大学院農学研究科博士課程修了。農学博士。元京都大学副学長、福山大学生命工学部教授。現人間文化研究機構総合地球環境学研究所評価委員。1999年、日本植物病理学会賞受賞。京都市出身、72歳。

循環型社会 モデルを全国に発信

3大プロジェクト始動!!

研究所を立ち上げ、三つの大型プロジェクトをスタートさせる予定です。テーマは、循環型社会のツールとなる「BDF(バイオディーゼル燃料)」をはじめ、山陰海岸ジオパーク構想に関連した「海ごみ」、恵まれた鳥取県の森林資源を生かす「森林の価値創造」です。身近なテーマの研究で具体的な成果を出すことは、鳥取環境大学の存在価値を高める一つの有効な取り組みです。これらの地域と連携したプロジェクトで鳥取環境大学ありというところを全国に見せたいと考えます。

循環型社会モデル3大プロジェクト

1 廃食用油(使用済み天ぷら油など)の 利活用による低炭素循環型社会の構築

家庭などから出る天ぷら油の廃食用油をスーパーマーケットで回収し、BDF(バイオディーゼル燃料)に精製します。このBDFを農業用トラクターに使用し、精製時に出るグリセリン等の廃棄物はたい肥として利用します。そこでできた作物をスーパーマーケットに卸して市民に買っていただくことで、低炭素循環型社会が構築されます。地域の皆さんが環境意識と参加意識を持って行動し、この循環システムを広げることで循環型社会の実現にもつなげます。



文科省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
期間:平成20年～平成22年

2 山陰海岸の海ごみの調査による 国際的 海ごみ削減の提言

生態系への影響や、水産資源のダメージ、景観の悪化など世界的な問題となっている「海ごみ」(漂着ごみ、漂流ごみ、海底ごみ)。その発生原因を調査するとともに、海ごみ削減のための国際ルールを作成します。また、鳥取砂丘をはじめとする山陰海岸のジオパーク構想推進と関連し、豊かな海岸資源の保全から世界の「海ごみ問題」改善に発展させます。



環境省 循環型社会形成推進研究事業
期間:平成21年～平成23年

3 芦津の森(鳥取県智頭町)の活用による 森林価値の創造(計画中)

鳥取県智頭町の森林、自然、山村集落、街並みなどの資源を教育研究フィールドとして利用することで、その可能性を探求し、価値を創造します。



智頭町芦津地区との連携事業(計画中)

学生を応援します

新たに学費支援、学生生活サポート制度を充実。

鳥取環境大学奨学金として、環境活動や文化・スポーツ活動で成果を挙げた学生、成績優秀者に奨学金を支給します。昨年からは始めた自宅外から通学する学生のためのアパート代助成制度も喜ばれています。高等教育を受けたいと思う人の経済的な負担を少しでも軽減するため、公設民営大学として、しっかりと対応しています。

鳥取環境大学奨学金 環境部門	金額	25万円/年	支給期間	4年間	対象者数	30名(選考)
鳥取環境大学奨学金 文化・スポーツ活動部門	金額	50・25万円/年	支給期間	4年間	対象者数	該当者全員
鳥取環境大学奨学金 成績優秀部門	金額	授業料等の半額/年	支給期間	1年毎	対象者数	1学年5名程度(毎年度選考)
アパート代(下宿代)助成	金額	家賃の20%/月(上限1万円/月)	支給期間	在学期間	対象者数	該当者全員
兄弟姉妹施設費免除	金額	施設費/年(25又は30万円)	支給期間	在学期間	対象者数	該当者全員
特待生制度	金額	授業料等の半額/年	支給期間	4年間	対象者数	若干名
授業料等減免 鳥取県内出身者	金額	授業料等の半額/期	支給期間	半期毎	対象者数	該当者全員(毎年選考)
授業料等減免 鳥取県外出身者	金額	授業料等の半額/期	支給期間	半期毎	対象者数	各学年3～4名程度(毎期選考)
鳥取市鳥取環境大学 入学・就職奨励金	金額	12万5千円	支給期間	入学年度・卒業後1年以内	対象者数	該当者全員

詳しくはお問い合わせください



第5回「環大コンペ」の 入賞企画が決定

「環大コンペ」とは、「鳥取環境大学を支援する会」の主催により、大学生活の向上あるいは地域社会へ貢献する優れた企画を実施する学生団体を募集し、企画内容のプレゼンテーション等を経て、優秀企画(団体)を選考・活動資金を授与されるものです。なお、このコンペは2004年度に始まり、今年度が第5回となります。授与式に際して同会の清水昭允会長より、「素晴らしい発想と継続性がある企画が見られ、しっかりと後輩に伝承されていると感じた。また、駅伝チームの結成は画期的であり、参加した大会全てで完走するなど、学生ならではのチャレンジ精神も大いに評価したい。」とコメントを頂き、受賞団体の代表者達は、このコンペの意義を改めて認識していました。また、同会より、本学学生ISO委員会へエコプロダクツ2008への参加支援金として、別途10万円贈呈して頂きました。

【第1位】

鳥取環境大学キャンパスリユース2008 キャンパスリユース運営本部(10名)

環境活動の一環として、リユースの意義を学内外に広く認知してもらうため、不要になった家具・家電を集め、新入生に安価で提供。

【第2位】

日本列島を軽くしよう!~ JUMP ~ 学生ISO委員会(7名)

本学学生及び全国各地の環境団体が「同日同時刻」に各地域で清掃活動を行い、正午ちょうどに拾ったゴミを持って一斉にジャンプ。清掃活動を楽しみながら、環境活動の活性化・意識の向上並びに環境団体同士の繋がりを作ることを目的とする。

【第3位】

SAKYU自由楽園7月DAYキャンプ SAKYU自由楽園部(30名)

鳥取砂丘を舞台に、世代間交流を目的とした様々な野外活動プログラムを実施。



【奨励賞】

竹林を中心とした里山再生プロジェクト SYNCHRO(21名)

若葉台にある産業技術センター裏の竹林を森林公園化することを目的として、竹林整備を行っており、その一環として若葉台小学校6年生を対象に竹林に関したイベントを実施。

【奨励賞】

鳥取環境大学駅伝チームの結成 鳥取環境大学駅伝チーム(14名)

本学駅伝チームを結成して鳥取県内の駅伝大会に積極的に出場することで、学生並びに大学のモチベーションを上げる。

【参加賞】

100万人のキャンドルナイト(鳥取環境大学の聖火)

同好会学生NPO CrossRing

ダイガクノミネーション2008

同好会学生NPO CrossRing

環境省ストップ温暖化一村一品事業参加 TUES地球温暖化を考える会

TUESCUP

TUES FUTSAL CLUB

秋のスポーツ大会 2008 in TUES

平成19年度クラブ会

平成20年度 学生年度表彰

学年は当時のものです。

課外活動/体育 個人

小早川 貴子(環境政策学科4年)

第48回中国地域弓道選手権大会一般女子個人戦優勝、第35回山陰学生弓道大会 女子個人優勝(最高の中者)等。

井出 梨英子(環境政策学科1年)

第14回中四国学生弓道新人戦 女子個人2位、第35回山陰学生弓道大会 団体2位の団体メンバー等。

課外活動/体育 団体

弓道部女子団体

第35回山陰学生弓道大会 女子団体2位、第54回中四国学生弓道選手権大会 女子団体9位等。

課外活動/文化 個人

中村 未来(環境デザイン学科3年)

鳥取県農林水産部主催の県産木製ベンチ・デザイン試作品の選考委員会において優秀賞を受賞。

岡垣 頼和(環境デザイン学科4年)

「安土城・徳見寺再建学生コンペ」に、同年代の類別を徹底的に渉猟し優秀賞(第2位)を受賞。

社会活動 団体

SAKYU自由楽園部

鳥取砂丘を舞台に大学生が作ったオリジナルのイベントを催し、小・中学生の新しい出会いを演出し、子供たちの人間性の醸成に寄与。

美術部

「2009鳥取・因幡の祭典」の「世界砂像フェスティバル」をPRするため、砂像制作の補助作業を行い大学のPRにも貢献。

マイコンアプリ研究会

第32回鳥取こどもまつりの実績や第24回鳥取県技能祭で操作体験コーナー等を実施し技能祭成功に貢献。

課外活動/環境 団体

環境部

学外での地域活動と環境イベントに積極的に参加し地域の環境意識の向上に貢献。

学生ISO委員会

学内一斉清掃をはじめ、鳥取市市街地一斉清掃など学内外の美化活動に積極的に取組み、地域の社会活動に貢献。

グリーン購入研究会

これからの未来を背負う子どもたちにグリーン購入に関心を持ち正しい知識を付けてもらうために工夫をしながら活動。

アクティビティ 個人

城島 正樹(環境政策学科4年)

この一年間、主に学友会執行部、しゃんしゃん祭りの踊り子リーダー、環謝祭実行委員、卒業アルバム製作委員として活動。

坪内 康恵(情報システム学科4年)

平成19年度電気情報関連学会中国支部第58回連合大会で優秀論文賞を受賞。

山田 遼司(環境政策学科2年)

環謝同好会を部長として設立後、学生の成長と繋がりを意識したイベント等により、学生の意識向上に貢献。

アクティビティ 団体

平成20年度環謝祭実行委員会

第8回環謝祭の準備・実施において中心的な役割を果たし、学内を盛り上げ大学の活性化に貢献。

平成20年度学友会執行部

学生生活の発展を目指し、大学との意見交換会において学生からの意見を集約し、それを現実すべく大学側と交渉を行ってきた。

同好会 学生 NPO CrossRing

「中国青年と交流会」に参加、「環大コンペ」4位入賞。「冬至100万人のキャンドルナイト 冬のぬくもり」主催等。

平成19年度クラブ会

学科・学年・教職員の間を越え、スポーツを通じて交流できる場を提供。参加多くの学生や教職員から幅広く支持された。

平成20年度 卒業生・修了生表彰

成績優秀

阿部 千春(環境政策学科)

今城 愛(環境デザイン学科)

船木 麻由(情報システム学科)

本学における学業成績が特に優秀であると認められるため。

課外活動/体育 個人

小早川 貴子(環境政策学科)

第50回西日本学生弓道選手権大会 個人準優勝、第48回中国地域弓道選手権大会 女子個人1位等。

課外活動/文化 個人

安藤 悠(建築デザイン学科)

本学に入学後本格的に英語を学んだにもかかわらず、TOEIC(IPテスト)で830点という驚異のハイスコアを残した。絵の才能も優れている。

岡垣 頼和(建築デザイン学科)

火災で廃墟になった徳見寺の本堂復元を競う「安土城・徳見寺」再建・学生競技設計(コンペティション)で優秀賞(全国2位)を受賞。

社会活動 個人

井土 洋志(環境政策学科)

「SAKYU自由楽園」部を立ち上げ、社会貢献活動をし、同好会から部へ昇格するほど活発に活動した。大学の活性化に貢献。

遠藤 慎也(環境政策学科)

鳥取大学との合同サークル「charider同好会」に所属。大学の活性化に貢献。

阿部 千春(環境政策学科)

高砂屋での「産直市」を立ち上げ、在学中の成績もトップクラスで、学業に真摯に取り組む姿勢は、他の学生の模範となった。

社会活動/環境 団体

大高 望(環境政策学科)

バリ島で開催された気候変動枠組条約第13回締約国会議に、ボランティアスタッフとして参加。環境省の事業「ストップ温暖化、一村一品大作戦」の一環である「ちょっと待った温暖化・とっぴり知恵くらべ大作戦」では選考事務局として活躍。

アクティビティ

城島 正樹(環境政策学科)

主に学友会執行部、しゃんしゃん祭りの踊り子リーダー、環謝祭実行委員、卒業アルバム製作委員、3年次にはクラブ会長として活躍。

山口 宏(環境政策学科)

「サッカー部」、「TUES FUTSAL CLUB」、「さーくる手話!同好会」所属。手話の普及に励み、ハンディキャップをもった学生の模範であった。

坪内 康恵(情報システム学科)

大学・高専・社会人研究者の発表の場である、「平成19年度電気・情報関連学会中国支部第58回連合大会」で発表、優秀論文賞を受賞。

難波 福弥(情報システム学科)

大学院に在学中に研究活動を熱心に行い、第1著者として外部の学術会議にて数々の業績を上げている。

アクティビティ/環境

加藤 雄介(環境政策学科)

学生ISO委員会委員長に2年生の時に就任し、温厚な人柄でリーダーシップを1年間、発揮した。





【プロジェクト名】 城下町とっとり 街歩き観光コースを企画する

【コンセプト】

このプロジェクトでは、鳥取の中心市街地に埋もれている歴史的な魅力を発見し、旅行者が街歩きを楽しむことができるようなコースを企画することを目指します。

【プロジェクト概要】

中国横断自動車道姫路鳥取線の整備が進んでいます。高速交通網の整備は、観光をはじめとする交流人口を拡大させる大きな機会として注目されています。そこで現在、観光地として発信されている場所はもとより、いまだ知られていない場所、歩くことで感じられる街のたたずまい

や点景などを探り「観光コース」を提案しました。このプロジェクトは次の4つの条件の下で、各グループがテーマに沿って街歩きコースを企画・提案しました。始発点・終点のどちらかが鳥取駅、県庁もしくは高砂屋であること。もう一方は「100円循環バスくる梨」のバス停となること。観光コースの所要時間は3時間であること。そして観光時の移動は徒歩であることです。一度全員で鳥取の町を歩き、観光をした結果、鳥取の自然を楽しみながら、心も体もリフレッシュできる「自然コース」、池田家ゆかりの場所を訪ね、城下町とつとりをたっぷり堪能できる「歴史コース」、鳥取を舌で楽しむ「食コース」の3つのコースを提案することになりました。個人旅行の経験のない学生にとって、観光とは観光地や観光施設そのものであり、そこに行く過程を楽しむという発想がありません。観光地

までの道のりを演出することで観光地の理解や感動がより深まることを理解することが初めの難関でした。

何度も街を歩き、今まで通ることのなかった横道から知らなかった町並みや風景に出会いました。そして体験した感動をまだ見ぬ観光客に伝えるために、情報収集をし、順路などの工夫などの議論を重ねていきました。

大学の研究に正解はありません。正解がない以上、最短コースもありません。正しい答えを導くよりも、その過程がより重要なのです。もちろんたまには寄り道や休憩をしますが、その中で新たな発見があるかもしれません。

よく知っているはずの鳥取の街でしたが、あちらこちらに垣間見ることのできる歴史や自然を再発見し、初めは長いと感じていたはずの3時間コースでしたが、短すぎると感じるほどになりました。

今回企画した城下町とっとり街歩き各観光コース



自然コース/袋川 桜土手



袋川の桜並木は若桜橋から湯所橋までの2キロにわたって続いています。毎年お花見の時期は夜間ライトアップされ夜桜を楽しめます。

桜の種類 ソメイヨシノ 本数 約230本

歴史コース/鳥取城跡



鳥取城は中世城郭と近世城郭という2種類の遺跡で構成されており、日本100名城にも選定されています。

食コース/鳥取城跡

最近、鳥取の食が取り上げられることが多い為、自然豊かな地産地消の食べ物を紹介します。



2008年度後期 キャンパスニュース

福嶋教授が水文・水資源学会の平成20年国際賞、第62回毎日出版文化賞をダブル受賞

平成20年9月11日 研究・交流センター所属の福嶋義宏教授が、水文・水資源学会より平成20年国際賞を授与されました。本賞は国内外で顕著な研究業績を挙げた者に贈られる権威ある賞です。GEWEX/GAMEという、気象学と水文学の双方に関係する気候形成への陸面の役割を明らかにする国際的な観測研究を熱帯から寒帯までのユーラシア東部地域で、国内外の研究者と共同して展開。そのまとめ役を果たし、永久凍土に覆われたシベリアのタイガ林での熱・水循環に関して新しい知見をもたらしました。この研究は、黄河の水が消失する「黄河断流」の原因解明と、その環境への影響解析につながり評価されたものです。

また、平成20年11月6日には著作の「黄河断流～中国巨大河川をめぐる水と環境問題」が毎日出版文化賞を続けて受賞。同賞は第二次世界大戦の終戦後間もない1947年、出版文化の向上を願い創設され、出版点数が拡大する中で、毎年、優れた出版物を選び顕彰しています。



頑張れガイナレ鳥取! J2昇格を目指す地元サッカークラブに寄付金を贈呈

平成20年9月25日 J2昇格に向けて毎試合熱戦を繰り広げているSC鳥取の塚野真樹社長に、本学の教職員有志30名を代表して古澤学長から寄付金を贈呈しました。贈呈式には塚野社長と同クラブ広報担当の濱田正人さんが来学。塚野社長は、「寄付を頂いて大変有難い。今年でJFL加入8シーズン目を迎える今季の残り8試合を全力で戦い、J2昇格を目指したい。」と力強く抱負を語られました。また、広報担当の濱田正人さんは、本学第一期の卒業生であり、在学時から昨年まで活躍していた元プレイヤー。塚野社長は、「学生の皆さんにも応援・協力をお願いしたい。クラブとして子供達の情操教育にも力を入れており、濱田さんのような地元出身の選手

がどんどん入団してくれることを期待しています。」と熱いメッセージを述べられました。



シンポジウム「高効率ごみ発電による低炭素社会の実現」を開催しました

平成20年10月21日(東京会場)、10月23日(大阪会場)で、高効率ごみ発電による低炭素社会の実現をテーマにした国際シンポジウムを開催しました。研究・交流センター田中教授による講演の他、環境省による政策解説や、東京都・大阪市、また海外からスイス、オランダの事例が紹介されました。田中教授は低炭素社会、循環型社会の実現に向けた取り組みとして、超広域からのごみ回収、高効率発電によるエネルギー回収、プラスチックの燃料化などを提案。講演終了後のパネルディスカッションでは、会場に訪れた参加者から多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。



米子鳥取間駅伝競走初参加。大健闘!

平成20年11月8日、9日 米子 - 鳥取間駅伝競走大会が行われました。初参加の本学は、日頃の練習成果を存分に発揮しました。1日目は米子市の東山陸上競技場をスタートし倉吉市菅陸上競技場まで62km、2日目は倉吉陸上競技場から鳥取県庁までの54.5kmの総距離116.5kmを7時間26分45でゴールし、堂々36位(60チーム参加)という好成績を収めました。



「安土城惣見寺(そうけんじ)再建学生コンペ」にて本学チームが優秀賞

平成20年11月22日 滋賀県立安土城考古博物館(滋賀県蒲生郡安土町)で開催された「安土城惣見寺再建学生コンペ」にて、本学チーム(代表:環境デザイン学科4年岡垣頼和、指導:同学科浅川滋男 教授)が優秀賞を受賞しました。同コンペは、惣見寺再建計画委員会(主催:惣見寺)が実施。審査会は3時間以上におよび、本学の岡垣頼和さんの作品が、最優秀賞に次ぐ優秀賞に輝きました。惣見寺は織田信長が創建し、江戸時代にそのほとんどが焼失。同寺が暖めてきた再建への思いを「若い学生たちの自由な発想に期待」し、このコンペティションを企画・募集されたものです。岡垣さんの作品は、惣見寺本堂とほぼ同年代の類例を徹底的に渉猟し、そのデータを紡ぎあわせるオーソドックスな「復元」の手法によるもので、考古学・建築史研究者から強い支持を受けました。また、信長のご神体である「益山」の配置に関する理解についても高い評価を獲得しました。



中国太倉市本学視察

平成20年11月27日 鳥取市交流自治体である中国太倉市の訪問団5名が交流事業の一環として来鳥、本学を視察に来られました。はじめに、古澤学長が「鳥取環境大学は、「環境」と名のつく大学として、環境マインドを持った学生の育成と地域社会への貢献に努めています。」と挨拶し、続いて、訪問団団長で太倉市人民代表会常務委員会 王副主任より「ハイスピードで経済発展している中国においても環境保護は共同の目的であり、この機会に鳥取環境大学の理念を太倉市に持ち帰りたい。今後、太倉市健雄大学と鳥取環境大学との提携・交流を期待しています。」と述べられました。



高大連携による「ミニチュア・レスキューロボット」競技会が開催されました!

平成20年12月25日 米子工業高校と本学との高大連携教育プログラムの成果発表会として、「ミニチュア・レスキューロボット」競技会が開催されました。本学は米子工業高校と鳥取情報ハイウェイを通じた遠隔授業の実施など連携授業を続けています。そしてこのたび、高校生と大学生が同一テーマを通じて、課題可決能力を高めることを目的とした「課題発見解決型」教育プログラムを実施。社会人として必須とされる「自分で能力を解決する能力」を互いに刺激し合い、養うことを目的として昨年度から継承されています。競技は、被災地に見立てた「建築物エリア」「丘陵・住宅エリア」など4区画に区切られた囲いの中から、それぞれが作製したロボットにより10分間以内に人形を救出するというもの。米工高(電気科3年)2チーム・本学(情報システム学科)2チームの計4チームが挑戦し、各エリアに散在しているがれき(発泡スチロール製)を丁寧に除去しながら、人命救出に向かいました。本学チームはコントローラに携帯電話を使うなど、独創的な視点からロボットを作製。指示どおりに作動しないなどの予期せぬトラブルに見舞われながら、その対処法をその場で模索しながら解決へと向かう「課題発見解決型」の競技会となりました。



本学学生が最優秀賞受賞!平成20年度鳥取県青少年建築アイデアコンテスト。

平成21年1月17日 社団法人鳥取県建築士事務所協会が主催する「平成20年度鳥取県青少年建築アイデアコンテスト」において、環境デザイン学科3年 中村未来さんが最優秀賞を受賞しました。このコンテストは、同協会が鳥取県民の皆さんに親しまれる公共施設の実現と、建築に携わる人材の育成を目的として、県内の青少年から新鮮なアイデアを募集。本年度のテーマは「倉吉駅南口駅前広場シェルター」。JR倉吉駅の改修と地域交流センターの新築に併せて、全面的に改修される駅前広場の顔に

ふさわしいシェルターのアイデアが課題とされてきました。今後は中村さんの作品をもとに、専門家の手を経た後、シェルターが広場に設置される見込みです。



関西からの進出企業等と協定書を締結しました。

平成21年1月26日 N700系のぞみの揺れ防止装置など電子機器の開発・設計・製造を行っているマルチ株式会社(本社:兵庫県西宮市)の鳥取オフィス進出に伴い、本学が有するシーズ(「種」となる新技術)の商品化や新たなイノベーション(技術革新)商品の開発を目的として、同社と本学、そしてこのたびの進出を支援する鳥取県の平井知事と鳥取市の竹内市長との間で、協定書を取り交わしました。同社代表取締役会長の浅田敏躬氏は鳥取県伯耆町(旧・岸本町)のご出身で、ソニー株式会社を経て昭和49年に創業。同社には本学卒業生も勤務しており、来年度も4人の採用が内定中です。浅田会長は「研究成果とマーケットがつながる仕組み作りによりニーズを取り入れる。環境産業分野にはニーズ創出の機運があり、鳥取環境大学の持つシーズを利活用してマーケットとの架け橋になりたい」と鳥取オフィス開設の思いを述べられました。また、協定締結後の記念講演会には一般の方や多数の教職員・学生が聴講。満席となった会場は熱気に包まれました。



「鳥取環境大学との産学官連携に関する懇談会」が開催されました。

平成21年2月24日 鳥取環境大学を支援する会主催による「鳥取環境大学との産学官連携に関する懇談会」が、完成間もない鳥取産業会館・鳥取商工会議所ビルで開催されました。同懇談会では、学生による研究発表や学生

ISO等の日頃の学生生活動の報告が行われました。また、古澤巖学長より、新学科開設やバイオマス系廃棄物(BDF)利活用に関する研究などの近況報告も行われました。なお、本学の産学官連携活動に尽力し、本年度をもって退職する鷲野翔一研究・交流センター長より「本学が皆様を支えられていると改めて痛感しています。皆様のご支援に深く感謝し、その期待に応えるべくより地域に根ざした教育・研究活動が続くことを願います」と退任挨拶があり、交流が一層深く行われることを、参加者で共有しました。



低炭素循環型社会の構築に向けて、地域ぐるみの産学共同研究スタート!

平成21年3月30日 平成20年度に文部科学省が募集した補助事業「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に「廃棄物系バイオマスの利活用を核とした低炭素循環型社会の構築に関する研究」を応募し、採択されました。(平成20~22年度)。研究の一環として、トスク株式会社(本社:鳥取市)と本学が共同し、鳥取市内にある同社3店舗を通じて廃食用油を回収する研究を行うため覚書を取り交わすとともに、BDF(バイオ・ディーゼル・フューエル)精製装置の運転開始式を行いました。この新しい精製装置の能力は日量100リットル。本学の従来機(日量40リットル)の2.5倍の精製が可能となり、一層の利活用が見込まれています。覚書締結式に際して同社代表取締役社長の依藤氏から、「地元とともに、暮らしとともに」をモットーとしているトスクが協力することで、この研究が深く地域に根付くことを念願しているのご挨拶を頂きました。今後は先述の3店舗の出入口に廃食用油回収ボックスを各2台設置し、持参されたお客様に同社の買い物ポイントを1ポイント(=1円)進呈するなどして、廃食用油の回収率向上と環境問題に対する意識の向上を目指していきます。





2008年度就職活動結果

5期生の就職内定率86.8%

5期生の就職内定率は、厳しい雇用環境の中86.8%という結果になりましたが、今年も学生たちは大手企業や優良企業、あるいは地元企業に就職しました。5期生の就職環境は、当初大学生、大学院生を対象とした全国の民間企業の求人総数が約95万人と過去20年間では最も高く、また求人倍率も2.14倍と高い状態にあり、近年の売り手市場が続いていました。ところが、米国に端を発した金融危機の影響が、大学生、高校生を対象とした雇用環境に影響を与え、秋以降の採用選考の状況は急変。企業からの求人は極端に減り、学生たちの挑戦の機会は少なくなりました。このような採用状況激変の中、学生たちは最後まであきらめることなく活動を続けて、その結果就職内定率86.8%に到達することができました。

環境政策学科はあらゆる業種に、環境デザイン学科、情報システム学科はそれぞれ建設系、情報通信系の企業に半数近くの学生が内定するなど学科ごとの特徴が活かされました。また、資本金10億円以上の大企業には3割以上の学生が内定しました。

鳥取環境大学で学び身に付けた、自ら課題を見つけ調査分析をし、問題発見から

解決策を導き出す行動力や問題解決能力、あるいは情報処理能力などをさらに高め、将来必ずや企業や組織の中で活躍してくれるものと期待しています。



本学の特徴的な就職支援策「学内企業説明会」の様子

【5期生の主な就職先】

建設業

イチケン、シブヤバイピング工業、島根電工、住友不動産リフォーム、セキスイハイム中四国、大和ハウス工業、タマホーム、パナソニック電工ホームエンジニアリング、パナホーム兵庫、東日本ハウス

製造業

川上食品、川島織物セルコン、寿製菓、三洋エナジー鳥取、ダイヤモンド電機、高橋工業、日段、日本研紙、フジッコ、正光、マルチ、水谷ペイント

情報通信業

エコーシステムクリエイター、エヌアイシー・ネットシステム、エムアンドシーシステム、ゴンゾ、シーエスサービス、ジスクソフト、トランスコスモス、日本ラッド、プレイニーワークス、プロコーポレーション、ユー・エス・イー

運輸業、郵便業

岡山県貨物運送、九州旅客鉄道、西日本旅客鉄道、日本交通 鳥取本社、東日本旅客鉄道、日ノ丸自動車、ヤマト運輸

卸売業、小売業

あおき、旭食品、イオンリテール、トセキ中国、イワキ、えびす本郷、オートボックスセブン、カインズ、熊本大同青果、ゴダイ、コメリ、雑貨屋ブルドッグ、サンゲン、サンコーインダストリー、ジュンテンドー、スズキ自販鳥取、ダイキ、大冷、天満屋ストア、東京靴、常盤メディカルサービス、鳥取マツダ、トヨタカラー鳥取、トライアルカンパニー、ドラッグイレブン、ナンバ、西日本フード、ネットヨタ山陰、バルコス、平林金属、フーズマーケットホック、不二貿易、ホンダカーズ鳥取、米良電機産業、山武商会、山野商事、ライフオート、リカーマウンテン

金融業、保険業

カトヤ証券、かんぼ生命保険、倉吉信用金庫、山陰合同銀行、全国共済農業協同組合連合会鳥取県本部、鳥取銀行、鳥取信用金庫、兵庫県信用漁業協同組合連合会

不動産業、物品賃貸業

共立メンテナンス、グローバル住販、山陰ステーション開発、積和不動産中国

学術研究、専門・技術サービス業

池下設計、キシモト、CLEO

宿泊業、飲食サービス業

くらコーポレーション、サンデーサン、ジョイフル、大和リゾート、日本マクドナルド、ワタミ

生活関連サービス業、娯楽業

鳥取県観光事業団

教育、学習支援業

京急油壺マリンパーク、鳥取環境大学

複合サービス事業

石見銀山農業協同組合、鳥取いなば農業協同組合、東宇和農業協同組合、丸倉、郵便局

サービス業

荏原エンジニアリングサービス、三光、ジェットシステム、自然公園財団鳥取支部、セコム山陰、総合警備保障、トータルサービス、鳥取県商工会連合会、夢真ホールディングス

公務

鳥取県、鳥取県警察本部、新居浜市役所、防衛省

行列のできる!?就職相談所 vol.5 実施報告

本学同窓会『Re;TUES』と就職課がタイアップし、卒業生による在学生向けの進路支援企画『行列のできる!?進路相談会VOL.5』を1月10日に開催しました。この企画は、同窓会を設立した2005年にスタートし、今年で5回目を迎えます。進学・就職・起業など、卒業後様々な分野で活躍している1期生から4期生までのOB・OGを相談員として招き、在学生からの進路相談に応じるものです。当日は、相談員一人ずつブースを設け、個別相談ができる体制で臨みました。相談員の構成は様々で、製造・小売・金融・サービス・公務などの業界で営業職・研究職・専門職・技術職などに携わっている者、起業して喫茶店を営んでいる者、農・林業などの第一次産業に携わる者、大学院へ進学した者などおよそ20名が、全国各地から集まってくれました。開催日は朝から雪が降り続き、大雪警報が

出る荒れ模様の天候にも関わらず、前回よりも多い150名を超す学生が集まりました。始まるたびにすぐに全てのブースが学生でうまり、一つのブースで30分以上メモをとりながら先輩の話に聞き入っていたり、閉会時間ぎりぎりまで先輩と話し込んだりする学生もいて、その熱心な姿が印象的でした。就職活動真っ最中の3年生はもちろん、1年生の姿も多く見られ、進路選択に向けての意識の高さがうかがえました。相談に応じる卒業生は、働く現場の雰囲気やできるだけ伝えようと、通常の仕事スタイルでブースに着きました。持参した会社パンフレットや自ら栽培し収穫した農作物などを手に熱く語る姿が見られました。

参加学生のアンケートには、「親身になって相談に応じてくれた」「時間が足りなかった」「とても良い刺激になった。こういう機会をもっと増やしてほしい」「先輩を目標にして頑張りたい」

など満足度の高い意見がたくさんありました。

同窓会のネットワークを活かしたこのような企画は、今後卒業生の層が厚くなるほど、ますます充実していきます。これまで毎年続けてきたこの『行列のできる!?進路相談会』を、進路支援の一環としてだけでなく、卒業生と在学生との交流の場ともなることを期待して、今後につなげていきます。



行列のできる!?就職相談所 vol.5 ブースの様子



伝統行事と人々の往来



環境マネジメント学科
福嶋 義宏 教授

私は京都市で生まれました。家は市内の北東の小山の麓にあり、明治期の陸軍参謀本部が作成した「5万分の1」地図では完全に町はずれの山の麓で、出町と呼ばれる天皇の居住された御所の北東の角にある商店街から、田畑が数キロ続いたところ。毎年、8月16日、お盆の送り火で先祖を供養する行事として「妙」と「法」という2つの火文字を灯し続けている地域にある小学校に入学しました。と、言っても私を含む3割程度の学童は小学校から南に1キロほど離れた、「新興」の「町」から来た子とみられていました。松ヶ崎では送り火の前日、題目踊りという盆踊りも鎌倉時代から続いています。そこでは、代々各家の長男だけが、各戸に割り振られた、火床にまきを運ぶことが決まりごとでした。おそらく、宗教的圧迫を避けた日蓮宗の一集団が結束を固め、村を強く維持するための象徴として、送り火と題目踊りの行事を始めたと言われています。

だからと言って、私たち「町」の子らは、松ヶ崎の学校近くに住む子供たちと、決して仲が悪かったわけではありません。卒業以来、55年過ぎた今でも、小学校のクラス会が頻繁に開かれ、かつてのヤンチャ坊主は学校や地域の行事の指導者として、行事を保存・発展させる

ことを当然のことと考えているようです。そして、その松ヶ崎や修学院から福井県小浜に抜ける山越えの街道は、京都へ魚を運ぶ重要な道で、「鯖街道」と呼ばれていました。

さて、わが鳥取環境大学は鳥取市の南南東約5キロの新興住宅地域の一等地に位置する閑静なところにあります。私の研究室の窓からは、天気の良い日には扇ノ山や氷ノ山のほか、岡山県との境界となる那岐山などが視界に入ります。

京都では、鳥取については、因幡の白兔の物語を知ってはいましたが、これは子供の頃に聞いた神話のひとつです。先日、家内と白兔海岸へ行った際、海岸から40～50メートルほどの丘陵地状の高台に、タブなどの照葉樹林に囲まれて白兔神社(写真)が祀られていました。

一方、自然を素直に歌い上げている万葉集の歌人は、大和だけでなく、因幡や石見へも往来していました。万葉集の歌人であり、編纂に係った大伴家持は、大学のある若葉台の



白兔神社

北東、国府で因幡国守の任に当たったそうです。

8世紀の中ごろ、家持はといった道の通って因幡に入ったのでしょうか。よくわかりません。本大学の図書情報課に勤務される足立徹さんの調べによれば、江戸期の伊勢参りには氷ノ山の北側にある旧道が使われていたようです。当初、想像していた戸倉越えや志戸坂越えではなく、但馬経由の旧山陰道がある時期の街道でした。しかし、それより約800年も古い奈良時代の家持はどこを通っていたのでしょうか。

出雲や伯耆、因幡は新羅など朝鮮半島から大きく影響を受けています。たたら製鉄による鉄器製造がその証拠のひとつで、さらに遡れば、すでに弥生時代に、大山の麓、妻木晩田(むきばんた)に大規模な弥生集落群があったそうです。道は変わっても、人の往来は、私が予想していたよりもずっと頻繁であったことを物語っています。江戸時代に伊勢参りが盛んであったと聞いてはいましたが、各地の特産物や地域の行事なども予想外に知られていたこととなります。例えば、用瀬(もちがせ)の離流しなどは京都の下鴨神社で行われる離流しと、どこが違っているのか、一度みてみたいものです。

今日的高速道路や新幹線が建設される以前から、人は旅を楽しんでいたと考えれば、日本人は昔から好奇心の強い、そして信心深い民族であったようです。逆に、伊勢参りがあったということは、ほとんどが農林漁業と商いを生業としていたはずの因幡で、金銭的余裕や心のゆとりがあったことを意味しているのでしょう。

環境問題啓発コラム 第1回

環境保全行動:できることから始めよう!

環境政策経営学科 衣川 益弘 教授

環境を考えた配慮を何かやっていますか。温暖化をはじめとする地球環境保全が叫ばれていますが、家庭部門の対応が大幅に遅れています。省エネルギーや公共交通機関の利用が叫ばれ、その重要性は、多くの人が認識しているものの、「誰もやっていないから」、「私ひとりではどうにもならない」と考え、利便性を犠牲にしてまで取り組むことに抵抗があるようです。

そこで、朝起きてから、夜眠るまでの日常生活

の中で、無理なく少し工夫すれば出来ることから取り組んでみてはいかがでしょうか。

朝、まず歯磨きをしますね。ここで少し環境のことを考え、歯磨きのやり方を考え実践してみよう。

「歯磨き粉は、どれだけ付ければいいのか。」「水は流し放してなく、必要量をコップに受けているか。」「顔を洗う水や石鹸の量は、これでいいのか」など、その方法は様々あり、あなたの選択が、

環境保全に繋がるのです。また、ムダを省くことにもなります。毎日の通勤、通学、洗濯、炊事、買い物など、環境を考えたライフスタイルを再構築してみてもいいか。一人ひとりの小さな改善の積み重ねが大きな結果となり地球環境の保全につながります。





クラブ&サークル活動・戦歴



吟詠剣詩舞部

吟詠剣詩舞とは、昔の中国・日本の故事や歴史的な出来事を題材にした詩に節をつけ謡ったもの(詩吟)に合わせて、刀や槍または扇子などを用いて舞う伝統芸能のことです。現在、部員10名で地域の文化祭や納涼祭などのイベントや、京都で行われている全国コンクールへの参加を中心に活動しています。練習は週に2回、外部から先生をお呼びして指導していただいています。刀や扇子の扱いはそこまで難しいものではないので、楽しみながら練習に励んでいます。また未経験でも先生が丁寧に指導して下さるのですぐに慣れることができます。詩に込められた意味、作者の心情、詩吟の背景などを舞で表現するので、同じ吟でも流派や個人によって表現の型はまったく違ってきます。もし、私たちの舞を見かける機会があった時はどういった表現をしているかなどを注意深く見ていただければ嬉しいです。これからも活動を通して吟詠剣詩舞の魅力を伝えていきたいと思っています。



空手道同好会

私たち空手道同好会は現在男子5名、女子3名、計8名で活動しています。私たちは井上派系東流慶心会という流派に所属しており、年に4回行われる昇級・昇段審査に参加したり、試合にも積極的に参加しています。私たちが行っている空手はノンコンタクト形式といって、パンチを寸止めをするという形式の空手を行っています。活動の内容は週2回体育館にて主に空手の組み手の練習や型の練習をしています。空手の練習と聞くと固いイメージがあるかもしれませんが、私たちは他にもゲーム形式の練習やミットを打つといったようなストレスを発散するような楽しい練習もしています。また、週2回の練習以外にも希望者には所属している流派の道場で練習することもできます。私たちは一人一人目的を持って活動しており、黒帯を目指して活動する者、試合で勝つために練習に励む者、護身術として身につけてみたいという者といったようにそれぞれが目的を持ち、その目的を達成するために各々自分のペースで練習に励んでいます。



人事報告

New Face

鳥取環境大学に新しく就任される先生に抱負を語っていただきました



環境政策経営学科
北崎 寛 教授

民間企業に19年間、大学に16年間勤務し、企業と教員歴がほぼ半半ばする年数となりました。企業経営を専門分野として参りましたが、最近では農業生産法人を中心に農業経営にも関心を持つようになりました。長く教職に携わり、学生諸君を教えることの喜びと同時に、その難しさも実感してきました。大学4年間は長いようで短く、短いようで長く、学生にとり様々な意味でデリケートな期間であると思います。大学で「学ぶ」こ

とは多岐にわたりますが、「学ぶ」姿勢をどのように形成するか、これが最も大切な点です。船乗りの世界に『帆が教える』という言葉があるそうです。「霧と風の大海原の中、漂流し始めた帆船を仲間と力を合わせて操り乗り切る」これが『帆が教える 帆に学ぶ』ことの意味なのでしょう。学生は4年間の航海に出る訳ですが、授業・仲間や教師は学びの源泉となる帆と言えるでしょう。学問と格闘し、また先生や仲間と一生懸命コミュニケーション力を合わせる。4年間霧と風の数々の試練を経て無事航海を終えたとき、きっと学生の目は輝きを増し、逞しい大人になっていることでしょう。



環境政策経営学科
付 馨 講師

日本に来てから、早くも9年の歳月が流れました。大学講師への就任は私にとって人生の大きな一

歩です。今まで多くの方々に助けられました。今後はその恩に報いるべく、より多くの人々を助けるように教育活動と社会貢献に努めていこうと考えております。大学は知識の伝授と人間性の育成を目的とする場で、高度な学問と豊かな人間性を持つ学生を育てることは私たち教育者の責任です。それを実行するために全力を尽くして、頑張っていきます。私は学生生活から離れたばかりですので、学生の気持ちをよくわかり、それを理解した上で教育活動に従事したいと考えております。また、自分自身の留学経験を活かし、国外にも目を向けられる高級人材の育成に努めたいです。4年の大学生活は、かけがえのない人生の重要な一時期です。この一期一会の出会いを大切に、会計の授業を通し、学生の皆様が充実した大学生活を過ごすように精一杯お手伝いいたします。



建築・環境デザイン学科
中橋 文夫 教授

新緑の美しい季節に、保護者の皆様方へご挨拶を申し上げる機会をいただき、嬉しく思います。

このたびは、ご令嬢、ご息様のご入学、まことにおめでとうございます。本学はご存知のように、わが国ではじめての環境を専門とする大学で、地球環境時代を迎えた今日、各界から本学への期待は高まっています。それに応えるため、私は実務家教員として今春着任しました。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。私は長年、都市環境の質を高めるため、ランドスケープアーキテクトとして、緑とオープンスペースの計画設計活動を通じて、まちづくりのお手伝いをして参りました。主に美しい都市景観の創造、荒廃した里山の再生、公園緑地の設計、植物資源のリサイクル、国際花と緑の博覧会会場計画などの業務に従事してきましたが、問題課題は山積し、その解決策が本学に求められています。その期待に応えるために、入学されました皆様方が、これからのわが国の環境分野を担う人材に育つよう、私は全知全能を捧げる所存です。ともに汗を流し、叡智をきわめ、そして、4年後には環境ビジネス界へ大きく羽ばたけるよう、微力ながら全力を尽くすことをお誓ひ申し上げ、着任のご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。



環境マネジメント学科
荒田 鉄二 准教授

2009年4月に環境マネジメント学科に着任しました。講義は「環境と文明」、「里山再生論」、「環境問題と住民生活」を担当します。前職は、吉備国際大学にて国際環境経営学部准教授を務めておりました。その前約10年間は、川崎市に事務所を置く環境NPOに勤務し、地球環境問題を文明の問題として捉え、持続可能な文明のあり方を探る活動に携わっていました。現在も、京都に事務所を置く、調査研究・政策提言型の環境NPOの運営に携わっています。持続性問題とも呼べる今日の環境問題は、世界の人工化を進めてきた人類が遂に地球の大きさという限界に突き当たったものと見る事ができます。このことは自然環境を改変し、世界を人工化していく開発というコンセプトの終焉を意味しており、人類は歴史的な大転換を迫られているのだと思います。学生や教職員の皆様、また地域の皆様と共に、鳥取発の新たな暮らしと文明のあり方を提案していければと考えています。



建築・環境デザイン学科
遠藤 由美子 准教授

建築・環境デザイン学科に着任いたしました遠藤です。私は、これまで20年間建築の設計事務所を広島で共同主宰、特にインテリア・家具のデザインを担当してまいりました。その間、大学の建築学科などで非常勤を長く務め、デザインの面白さを伝える喜びを感じておりました。学ぶ楽しさを伝え、学生の皆さんには、それを生かす仕事に夢をふくらませてほしいと思っています。私は、デザインは生き方に通ずる学問だと思っています。本学は、環境を大切にする思想を根底に各分野でどのように社会貢献できるのかを学ぶという点で、生き方の大事な方向性を示しています。これまで設計した住宅や施設の中で、地熱や太陽熱を利用したものがありますが、そこから建築主が得られる快適性は、多少の手間があっても積極的に自然に関与して生きているという、生き方に対する満足感です。問題に対し多面的に解決を探るデザインを学ぶことで、学生の皆さんには社会の中で力強く生きる力を身につけてもらえれば幸いです。



環境マネジメント学科
佐藤 伸 講師

皆様、はじめまして。2009年4月1日付けで鳥取環境大学・環境マネジメント学科の講師に着任しました

佐藤伸と申します。私はこれまで学生、研究員を通じて木質系バイオマスを分解する微生物の機能について研究をしてまいりました。本学では環境とバイオマス変換をキーワードに講義や研究を行う予定です。現在、新聞や雑誌をはじめ、多くのメディアでバイオエタノールについての記事を見かけるようになりました。環境にやさしい再生可能な資源であるバイオマスは、単に化石燃料に代わるバイオエタノールの原料としてでなく、様々な形に物質変換できる可能性をもっています。自然が豊かでバイオマス資源となる材料も豊富な鳥取の地の利を活かし、これまでの概念にとらわれないユニークな発想で、バイオマス変換のための技術やプロセスを学生とともに研究していきたいと考えております。



情報システム学科
染谷 治志 教授

平成21年4月1日付で本学情報システム学科に着任いたしました、染谷治志と申します。「総合的

な視点とシステムのアプローチで、社会・生活活動における諸問題を的確に発見して効率的に解決できる、問題追求型の人材育成」に取り組んでいく所存です。無限の可能性を秘めている学生みなさんと一緒に、世界を広く観察し自由かつオープンなコミュニケーションを深め、自然と共生する私たちの社会・生活に新たな価値を生む情報システムの創造にチャレンジしていこうと考えております。また、前職での企業情報システムの研究開発の経験を活かし、情報システムの社会・生活活動における役割、情報システムを創る楽しさと難しさを伝えていきます。私は、教員一年生です。さまざまな経験を積んで教育の力量を身に付け、英国で行われている歴史的な科学講座である「クリスマス・レクチャー」に近づきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



大学学部・大学院学位授与式

「2008年度 鳥取環境大学 学部・大学院 学位授与式」を3月20日(金)に、鳥取市民会館で執り行いました。スーツや晴れ着に身を包み、第5期生となる学部卒業生229名、大学院修了生12名は、古澤学長、各学科長より学位記が授与されました。新たなスタートを切った卒業生に期待します。



入学式

「2009年度 鳥取環境大学 学部・大学院入学式」を4月4日(土)に本学で執り行いました。新しいスーツを身にまとい、緊張した面持ちの新入生たちが次々に訪れると会場は新鮮で華やいだ雰囲気に包まれました。



古澤学長から156名の学部生と3名の大学院生への入学が許可されたあと、学部新入生、大学院生をそれぞれの代表が宣誓を行いました。今後、新入生がどのように成長し、羽ばたいてくれるか楽しみです。



2009年度鳥取環境大学公開講座

新生!鳥取環境大学公開講座 第一弾

受講希望の方、お問い合わせはメールが電話でお申し込み下さい

鳥取環境大学 企画広報課

TEL.0857-38-6704 / FAX.0857-38-6709
E-mail kouryu@kankyo-u.ac.jp

5/9(土) 5/16(土)

米子会場

鳥取会場

地球環境を診断する～温室効果ガスのモニタリング～

環境マネジメント学科 藤沼 康実 教授

今回は、地球環境問題の中で最も深刻な地球温暖化を引き起こす原因物質(温室効果ガス)の挙動についてのモニタリングを例に、分かったこと、また、それが何に役立つのかなどについて、最新のモニタリング成果を中心に紹介します。

6/20(土) 6/6(土)

米子会場

鳥取会場

資源と環境を大切に「ごみ処理」～循環型社会の実現のために～

環境マネジメント学科 田中 勝 教授

循環型社会構築のために、今までより資源を大切に、汚染対策を徹底する環境を大切にするごみ処理方法が求められています。関係者にはごみ処理の施策や技術を選定した根拠を分かりやすく説明する必要があり、その方法を解説します。

7/4(土) 7/11(土)

鳥取会場

米子会場

自然と共生できる地域の再生

環境マネジメント学科 三野 徹 教授

水田稲作等、自然と共生する持続型社会をどのように描けばよいか、参加者と一緒にこの点について考えてみたいと思います。

8/8(土) 8/29(土)

米子会場

鳥取会場

私たち、自分自身のための環境保全

元研究・交流センター長 鷲野 翔一 非常勤講師

「情けは人のためならず」と言いますが、環境保全は誰のためにするのでしょうか?そう、私たち自身のためにするのです。人間の心理学的側面にまで踏み込み紹介します。

保護者の声 第1回

メイク ユアドリーム

2009年度 新入生保護者
勝連 盛豊(沖縄県)

人の世に三知ありと言う。その三知とは「自ら学んで得る知」と「自ら体験して得る知」、「人と交わって得る知」である。大学は興味、関心のある分野を追求し、自己研究を深めて行く場所である。そのためには「自学」の力を高め、さまざまな人と「交流」・「体験」を通してわが娘、新入生諸君には、その生き方や考え方に触れ合うことで、自分の考えや思いを伝えられる力を養い、志実現と生活の道を拓く力をつけてもらいたいものである。

支援する会

環境大学に期待する事

鳥取環境大学を支援する会
会長 清水 昭充

毎年環大コンペへの応募も多くなり、内容も多岐にわたり企画力も実践力も良くなっている。もう一つ注目しているのが高校生環境論文カップ。年々応募数が多くなり、環境に関心を持っている高校生がたくさん居る事は頼もしい。今後期待することは、より多くの実践的な授業・実験・実習を学校内外で実施することによって、青春の4年間に未知の事にぶつかっていくチャレンジ精神を鍛え、自然と共生していく事を学び、人間の五感を磨いて、感性豊かな学生を社会へ送り出すことである。